「万博アセス」大阪市・博覧会協会との懇談

昨日 21 日、大阪万博の環境アセスメント「方法書」について、大阪市と博覧会協会との懇談の場に参加した。私もメンバーである夢洲の都市計画変更を求める市民懇談会(夢洲懇談会、代表:桜田照雄・阪南大学教授)が 1 月 21 日に提出したアセス「方法書」に対する意見書への回答などの懇談である。

写真は大阪市役所地下 1 階の第 1 共通会議室で開かれた大阪市環境局･港湾局との懇談の様子。昨年末から正月にかけて作業して、博覧会協会と大阪市に「方法書」に関する意見書を送った。意見書の最初に下記のように書いた。

大阪万博の環境アセスは大阪市環境影響評価条例に基づくものであるが、愛知万博の環境アセスを継承・発展させる必要がある。愛知万博アセスの成果といえる「博覧会理念の実現に資するアセス」「会場計画と連動したアセス」をめざし、とくに「長期的な地域整備事業のアセスとの連携を図る」に注目したい。

大阪湾の人工島･夢洲という開催予定地にふさわしい環境アセスが求められる。また、大阪万博は「SDGs が達成される社会」を開催目的としており、会場予定地である夢洲の環境アセスについても、SDGs からの視点も重要である。

懇談の冒頭で、私が愛知万博アセスに意見してきた立場から、こうした考えを述べたうえで、大阪万博「方法書」の欠陥を指摘した。とりわけ事業計画が生煮えで、環境影響の調査項目に不備があることを力説した。3 月 6 日に「方法書」に対する市長意見が提出されるので、それを注視したいと述べた。その後、参加メンバーから・SDGs に基づいた環境アセス・防災面などの「リスクアセスメント」・アセスの調査範囲の拡大など稼働中の物流拠点や IR との複合影響などについて、意見が表明され質疑を行った。万博の環境アセスをチェックする立場の環境局のはずだが、質疑から、その姿勢が問われるように感じた。

2 時間の懇談を終えて、大阪府咲洲庁舎 43 階の博覧会協会に急いで向かった。写真は参加メンバーが撮ったものだ。ここでも、最初に私が愛知万博の経験などを話した。大阪万博は SDGs を目標に掲げるなら、会場予定地の夢洲の環境アセス、防災・安全面などのリスクにもっと目を向けるべきだと強調した。

先ほどと同じ項目で意見を表明したが、1 時間と短く、質疑も十分にできなかった。協会関係者の「検討中」という言葉が示すように、まだ計画が生煮えであり、大阪府市任せといった感じだった。こうした状況で、夢洲というリスクの大きい会場予定地で、万博が安全に開催できるのか不安に感じた。再三にわたる懇談を要望して会議を終えた。

(2020 年 2 月 22 日)